

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ねむのき		
○保護者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職の配置	保育士、児童指導員、精神保健福祉士、作業療法士の配置や、法人内(建物内)の看護師との連携により、支援体制を整えている。	各研修等で研鑽を積み、知識・技術の向上に努め、専門的な発達支援が安定して提供できるようにする。法人内で情報共有を図り連携に努める。
2	活動プログラムの充実	・支援プログラムに基づき月案を作成し療育を行っている。また、子どもそれぞれの発達段階に応じた、スモールステップでの支援や、意思形成支援へとつながるよう『選ぶ』ことを意識した取り組みを行っている。 ・行事やイベントを取り入れ、節目の季節を感じたり、子どもの成長とともに喜びあえる時間をつくっている。 夏には大きなプールで遊び、送迎バスを利用した園外活動等も行い、遊びの中から、丁寧に発達支援を行えるようにしている。	子ども施策の6つの基本理念にのっとり、障がいのある子ども、発達に不安のある子どもが、心身ともに健やかに成長し、のびのびとチャレンジできるよう、丁寧にサポートしていく。
3	保護者支援の充実 ・親の会があり、保護者同士の交流の場や勉強会がある。 ・ペアレントトレーニングを行っている。 ・保護者に支援場面の観察や参加等の機会を定期的に提供している。	・行事前の準備のお手伝いや、クラス活動参加後に時間を設け、気軽に意見交換を行ったり、話ができる場などを設けたりしている。また、全体の交流会も行っている。 親の会では、OBの保護者からの話を伺える機会も設定しており、就学までに必要な情報が共有できる場となっています。 ・毎年ペアレントトレーニングのプログラムの受講者を募集し実施している。 ・親子遊び、自由参観をそれぞれ月1回設定しており、実際に支援の場面を見ていただいたり、参加していただき、子どもへの関わり方等のアドバイスを行っている。	・保護者の方が、気持ちを共有したり情報交換ができる場となり、「また行きたいな」と思えるよう、工夫しながら企画していきたい。 ・全職員がペアレントトレーニングについての知識を深め技術を習得することで、家庭での支援をサポートできるようにする。
4	延長支援	サービス提供時間(9:45～14:45)以外で、8:00～9:45、14:45～18:00の間、保護者の就労に伴う延長支援を実施している。	引き続き、延長支援を実施していく。
5	幼児用マイクロバスがある。	・松茂町→北島町→藍住町→徳島市のルートで送迎バスを運行している。 ・送迎だけでなく、療育の中でもバスを利用することで、様々な場所への園外活動を行うことができている。	大好きなららん号に乗って登降園したり、友達と色々な場所へ行く経験や体験を積むことで、子ども自身の意欲や自信につながる支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報共有ツールが統一できていない	連絡帳、電話連絡、各月のクラスだより、セコムメールでの連絡、HP、インスタグラム等、情報発信・連絡ツールが統一できていないので、周知が遅れたり不十分。	他施設の取り組み等参考にしながら、整理していく。